

生徒の状況を把握しながら、デジタルと紙の良い面を生かして学ぶ



【生徒の状況を把握しながら、デジタルと紙の良い面を生かして学ぶ】

ロイロノートのカードに保存済みの実験結果を参照しながら、実験室の湿度を算出しました。その後、理論値と実測値の差や、班同士での実測値の差が生じる理由を考察しました。

担任の先生のコメント

ロイロノートに授業の成果物を提出してもらうことで、生徒の授業毎の考えや書き込みをリアルタイムに確認することができます。また、必要なデータなどの共有も必要なタイミングで即座に可能であり大変便利だと感じています。

ICT上で答えを導く際には、公式や数値を記載したプリントをその場で参照しながら入力を進めるなどデジタルと紙の良い面を生かし合いながら学びを進める事ができていました。

家庭学習では、授業を思い出し、ロイロノート内からデータ参照して結果を算出することで、必要な情報を引き出す力が少しでも成長してくれると嬉しいです。

2学年 理科
授業 「飽和水蒸気量」 空気に含まれる水蒸気の数・露点の測定と湿度
 めあて：理科室の湿度を求める

《授業の流れ》

- 1 実験結果の確認**
複数回の実験操作の内、データ処理に適した結果を選ぶ
- 2 考察および、共有**
班内で実験結果より実測値を導き出し、提出箱に提出し共有
- 3 全体での考察**
各班の結果を各自で確認しつつ、班ごとの差が生じた原因を考える
- 4 課題(プリント)に取り組む**
配布プリントに取り組み、理科室内の水蒸気量を実際に算出する
- 5 家庭学習**
乾湿計で測定した湿度をロイロノート上で配布された湿度表を基に算出する

